

2 学期終業式式辞

8月26日始まった2学期。「光陰矢のごとし」という言葉どおり、歳月の経過は思いのほか早く、令和3年も間もなく年の瀬を迎えようとしています。

今日は、皆さんの先輩でもある、墨彩画家「角藤博敏」様のご紹介をします。「墨彩画復興の力に」の見出しで、すでに愛媛新聞にも紹介されていました。角藤様は、本校の普通科を昭和41年に卒業後、就職のために上京し、倉敷市に移り造園会社（株）伊予山水園を設立されました。仕事の傍ら、54歳から独学で墨彩画をはじめたそうです。60歳のころからは、故郷（野村）の懐かしい光景を後世に伝えたいと考え、風景画を残し続けているとのこと。

今年の夏、故郷の風景を描いた作品展が、野村シルク博物館で開催されました。私も、行ってきました。約60点の豪雨前の町並みなどが魅力的に描かれており大変感激いたしました。角藤さんは、「今後も情熱がある限り、発表を続けるつもり」と話されています。皆さんも機会があれば見学に行き、故郷の誇りを再発見してほしいと思います。

角藤先輩に言えることは、年齢には関係なく一つのことに打ちこむ集中力と粘り強さ、前向きな考え方を持たれていることです。一つのことに打ちこんで、それを極めることによって、はじめて真理に達することが出来ると思います。たとえば、長年仕事に打ちこみ、素晴らしい技術を習得した大工さんなどに人生について聞くと、深見のある話をされます。また、修行をし、人格を磨いてきたお坊さんは、異分野の話をしていても味わい深く真理を説かれます。その他にも作家、芸術家など一芸を極めた人の話には、非常に含蓄（がんちく）があります。場合によっては、広く浅く知ることは、何も知らないことと同じかもしれません。深く一つのことを探究することによって、すべてのことに通じていきます。その意味では、皆さんが取り組んでいる「探究の時間」を大切にしてください。

今年のノーベル物理学賞に選ばれた四国中央市出身の真鍋 淑郎（まなべ しゅくろう）先生は、「本当に得意で好奇心を満たすことをやってもらいたい」「得意なことを選べば楽しい」と話されています。私は特にこの「好奇心」が大切だと思います。自発的な調査・学習や物事の本質を研究するといった知的活動を大事にしてください。自分の知らない事や珍しい事、面白い事などに積極的に知ろうとする、探究心の旺盛な人間になってほしいと思います。そして、高校生活や長い人生において興味・関心を持ち続けること、可能性は無限大であることを忘れず頑張ってください。

あと数日で、新年を迎えます。また新たな気持ちで、強い気持ちで、それぞれの目標に向かって進んでください。来年は、この野村にとっても、皆さんにとっても良い年になることを祈念して式辞といたします。

令和3年12月20日 愛媛県立野村高等学校 校長 松永 泰